

妊産婦の栄養性貧血に関する研究
 神戸女子大 家政 井上太郎

目的 国民の栄養状態が全般的に良くなっている現在においても、女性は男性にくらべて貧血傾向となる者が多い。ことに妊娠中にはいわゆる鉄欠乏性貧血のボーダーラインの妊婦が約30%の割合で見られている。妊婦の貧血傾向を予防することは、母体の健康を守ると共に、胎児の健全な発育をはかる面から肝要なことである。

方法 東京警察病院産婦人科ならびにタイ国バンコック市のマヒドール大学病院産婦人科の協力を得て、分娩前後の母体血と分娩時の臍帯血とを採取してもらい、血液性状を分析した。今回は母体血の血色素(Hb)値、血漿鉄および銅濃度を中心に説明する。

結果と考察 バンコックグループでのHb値は予期に反して東京グループの値よりも高濃度を示し、2例を除けば24例が11g/dl以上であった。東京では11g/dl未満が23例中10例もあるのとは大きな差異である。

次に血漿鉄値をみると、東京の値はバンコック値を上廻り、平均値で見れば約2倍であったが、Hb値は上記のようにバンコックの方が高値であった。

一方、血漿中銅値は大部分の例でバンコックの方が東京の値を上廻っていた。

以上のデータからすれば、Hb濃度は血漿Cu値にかなり影響されていると理解される。

魚介類ことに甲殻類(エビ、カニ)および貝類とくにカキには銅が豊富に含まれており、バンコック群ではたん白質源とこれらの魚介類にたよっている食を見逃せない。日本における小型の魚介類の摂取量の減少が血中銅値に影響し、これが貧血の一因となっている可能性が強いので、栄養調査をこの様な観点から再検討してみる必要があろう。